



1_ 出発式で高橋町長から激励を受ける派遣職員 2_ 村防災備蓄倉庫へ支援物資を搬入する様子

町は、7月25日から降った大雨の影響で、村の全戸数の約8割が一時断水した山形県鮭川村に対し、「災害時における相互応援に関する協定」に基づき、水約2・7トンの物資支援を行いました。

安全第一で業務遂行にあたってほしい」と激励しました。派遣職員らは、町備蓄品および防災協定を締結している(株)ダイユーエイトから提供を受けたペットボトルの水2、310本を4台の車両に詰め込み出発し、約2時間後に現地へ到着。元木洋介村長から被害状況などの説明を受けたのち、防災備蓄倉庫へ物資を搬入しました。

記録的大雨の影響で一時断水 山形県鮭川村へ水2・7トンを届ける



1_ 県北地方振興局の白石局長（左）から表彰状を受け取る高橋町長 2_ 日々交通安全対策に取り組む関係団体の皆さん

町は、7月20日午前0時をもって「交通事故死者ゼロ4、000日」を達成しました。

7月25日、県交通対策協議会会長表彰の伝達式が役場で行われ、町交通安全対策協議会長の高橋町長に、県北地方振興局の白石孝之局長から表彰状が伝達されました。白石局長は「国道4号が通る町で、この記録を達成されたことは、町民一人一人

や関係団体の交通事故防止への真摯な取り組みによるもの。今後も長きにわたり交通事故死者ゼロが続いていくことを願う」とあいさつ。高橋町長は「蚕糸跡地活用による賑わいや近隣の大規模商業施設建設など、日々交通環境は変化している。より一層、町一丸となって交通安全対策を推進する」と気持ちを新たにしました。

交通事故死者ゼロ4、000日達成 県交通対策協議会長表彰伝達式



1_ 町の好きなところや将来像を語る参加者の皆さん 2_ (左から) 河原遥人さん、佐藤倫己さん、吾妻緋色さん、高橋町長、佐藤魁星さん、阿部友哉さん、緑上冬華さん、石田柊生さん

令和7年に町制施行70周年を迎えるにあたり、町の未来を語り合う「こおり未来会議」が8月10日、グランケット桑折で行われました。

当日は、次世代を担う若者世代として、来年の桑折町二十歳の成人式参加対象者の中から選ばれた7人が、町への思いや町の将来について町長と語り合いました。はじめに、高橋町長が

「桑折町の今」をテーマに、これまでの歩みや現状について講話を行い、その後、参加者一人一人が、町の好きなところやこれからのまちづくりに望むことなど、自由に語り合いながら、町の将来像を思い描きました。

当日の詳しい様子は、来月1月発行予定の町制施行70周年記念誌に掲載しますので、ぜひご覧ください。

町の明日を思い描く こおり未来会議



1_ 活発な議論が交わされた審議会 2_ 高橋町長(右)に意見を付した答申書を手渡す奥原英彦会長(中央)と佐藤久仁夫副会長(左)

令和3年9月に策定した、まちづくりの最上位計画となる総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」。町は、本計画の前期基本計画が、今年度で最終年次を迎えることから、次期(令和7年度から令和11年度)計画となる中期基本計画の策定を進めています。

策定にあたり、町民や各種団体、有識者などで組織する町総

合計画審議会の第1回会議が7月30日、第2回会議が8月26日、役場で行われ、これまでの取り組み経過や将来のまちづくりについて活発な議論が交わされました。第2回会議の最後には、これまでの協議内容をまとめた答申書が町に提出されました。町は、答申内容などを踏まえ、9月議会に議案として提出し、審議を受けます。

総合計画中期基本計画策定に向けて 町総合計画審議会が町へ答申